

令和6年第4回教育委員会会議録

1 日時

令和6年2月20日（火）10時00分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教育長：石橋正信

教育委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、木下理事

中尾総務部長、峯川職員部長、齊藤指導部長

中野総務課長、坂崎教職員第1課長、石橋学校企画課長

4 会議事項

(1) 付議事項

付議案第13号 福岡市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則案

(2) 臨時代理報告事項

なし

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

5 開会

教育長開会を宣告 10時00分

6 付議事項

▼付議案第13号 福岡市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則案

坂崎課長より説明

《原案どおり可決》

[質疑等]

(町委員)

- 共同学校事務室を1室増やすとのことであるが、今までは3つで、1つ当たり50校程度担当していたのか。

(坂崎課長)

- 現在は、3室でそれぞれ75校程度所管しているが、4室になることでそれぞれ55校程度所管する見込みである。

(町委員)

- 東区、中央区、南区は1室で所管しており、博多区、城南区、早良区、西区は2室又は3室で所管しているが、今後解消する予定はあるか。共同学校事務室を4室体制にするとのことであるが、もう少し増やして細めに各校の事務職員の業務を支援するということが今後考えられるのか。

(坂崎課長)

- 集約する業務と、今後4室にした実績を踏まえて今後検討することになる。

(徳成委員)

- 共同学校事務室を増やすということは、各学校現場の事務の効率化、適正化が図られていくものと考えているが、各学校における業務と共同学校事務室において集約化していく業務について、改善していかなければならない、効率化するために必要である事務処理があれば教えていただきたい。

(坂崎課長)

- 集約する業務については、基本的には全ての学校で行っている備品の購入といったもので、効率的に処理することができるものを選んでいく。各学校で行った方がよいものはそのままにし、全ての学校で同じような事務作業をしている、同じものを購入するのにそれぞれの学校が購入事務を行っているようなものは共同学校事務室に集約するという観点で行っている。例えば、プロパンガスの契約については全ての学校が似たような契約をしており、契約書の作成をするといった事務を集約している。

(徳成委員)

- 集約することでコストカットになるもの、共同購入によってメリットが出てくる部分も大いにあるだろうと考える。先ほど町委員もおっしゃったが、今後、共同学校事務室は増やしていくべきと考えられているのか教えていただきたい。

(坂崎課長)

- 今後どのような業務を集約して効率化が図られるのか勘案してということになる。

(原委員)

- 共同学校事務室はどれくらいの人数でどういった方がいるのか。また、共同学校事務室に移した方がよい業務はどういったものが考えられるか。

(坂崎課長)

- 今の3室体制については、基本的に各室10名ずつ職員がいる。東部共同学校事務室のみ11名である。4室にすることで新たに集約する業務については、現在、

旅費の事務を一部集約しているが、旅費関係の事務をさらに拡大し、市外旅行関係の旅費については、来年度から共同学校事務室に集約して処理する予定である。

7 臨時代理報告事項

なし

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
石橋課長より説明

[質疑等]

(町委員)

○ 何点かお尋ねするが、8種目全てを実施したのが中学校では女子が7割弱、男子が7割強、小学校でも8割程度であるが、以前もこのような状況であったのか。

(石橋課長)

○ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これよりもっと少なかった。例えば、昨年度の小学校5年生は、分母が6,500名に対して3,500名であった。特に昨年度はコロナ下で少なかったが、今年度は少し増えている。

(町委員)

○ 「中学校は持久走も可とされているが、福岡市は持久走なし」とあるが、何か理由があるのか。

(石橋課長)

○ シャトルランの方が結果が良いという実態はあるが、持久走は男子であれば1,500メートル走るので運動が嫌いな子は諦めてしまうが、シャトルランは音楽にのってリズムカルにするといった違いがある。

(町委員)

○ 資料3ページについて、体力が低くても運動が好きという児童生徒がいるので、これをどのように位置付けていくか、体を動かす喜びというものを是非教えていただきたい。全員が競技選手になるわけではないので、健康体として長い人生を生きていくことができるように、体を動かすことの楽しさを教えてあげることが今後の体育の授業として一番大切なことではないかと思う。最後に、教育委員会の取組みとして、若手の先生方は熱心にされていると思うので、あとは専門性の高い指導員の方々の話をよく聞いていただいて、活用していただきたいと思う。

(徳成委員)

- 私も今回の結果が公表されてすぐに民放が報道した際に、北九州市との比較であるとか、報道内容に驚いたが、スポーツ庁が公表している全国集計も見せていただいた。福岡市教育委員会事務局としても細かなデータ分析をされていると思うので、いくつかお尋ねする。福岡市の傾向は都市型で特徴があると考えますが、小学校、中学校ともに、8種目の中で特に課題が顕著なものは何か。2点目は、運動経験と生活習慣、将来の健康づくりというつながりが重要だろうと考える。スポーツ庁の分析結果を見てみると、朝食欠食とスクリーンタイムの増加と運動量の問題は密接に関係があり、前回よりもさらに悪化傾向にあると指摘されているが、福岡市としても同じ結果であったのか、データの状況からどう捉えているか教えていただきたい。3点目は、資料5ページの今後の取組みについて、これは新たな取組みということではなく、これまでもされてきている取組みをさらに強化していこうということか。学校それぞれで課題が違うはずだが、教育委員会としてはどこを重点として捉えているのか、体力・運動能力、運動習慣等を今後さらに改善していくには、何が一番ポイントだと考えられているのか教えていただきたい。

(石橋課長)

- 1点目は、福岡市が特に落ちているのは長座体前屈で、柔軟性が低く、特に中学校2年生の男女ともに課題がある。また、小、中学校とも握力といった筋力系に課題があると捉えている。2点目の生活習慣については、特にゲームをする時間が多い子どもは体力に課題がある。また、全国の地域別、規模別のデータがあるが、大都市と町、村とを比べると、例えば小学校の5年生男子でいうと、2ポイント以上の差が結果に出ているところもあって、やはり元気に体を動かして健康でいる子どもたちが体力的に良いのではないかと捉えている。3点目について、今回の結果は受け止めているが、結果よりも子どもたちが、運動することが楽しい、運動に興味がある、スポーツを見ることも楽しいといった意欲的な部分を育成していくことが、今後大事と考えている。学校はもちろん、家庭とも連携しながらやっていくことが重要だと考えている。

(徳成委員)

- 福岡市の体力の課題について、柔軟性の問題など様々な課題があることが分かったし、福岡市のこれからの取組みとして、楽しさの追求ということも大事だと考えるが、やはり日頃の生活が大事であり、地方の子どもたちと都市の子どもたちの、学校への登校距離、登校時間も異なり、日頃の生活習慣の問題というのは非常に大きいと考える。もう1点はスキャモンの成長曲線によると、神経系の成長発達は0歳から8歳まででほぼほぼマックスまでいってしまう。そうすると、小中学校の課題というのは、むしろ就学前のあり方、家庭生活のあり方という問題が非常に大きいと考えている。多様な遊びの経験を通して基礎体力をいかに作

っていくのか、リズム感を作っていくのかということが大事である。、学校生活の中で、体育の時間だけでなく休み時間のあり方や、療育支援の分野でも子どもたちにとって朝の運動が大事といわれているわけだが、そういったことを学校単位ですることもあるが、福岡市として何を全体の課題と捉えて何を具体的にこれから取り組んでいくのか、体力向上推進委員会や体育の実技指導員の派遣といった中で具体化していただければと考える。

(武部委員)

- 子どもたちがこの質問に対して運動というものをどう捉えているのかがよく分からなくて、いわゆるスポーツとして答えてくださいという感じだったのか、先ほどから話が出ているレクリエーション的なものや少しでも動けばといったこれからの課題としてのものだと思うが、スポーツ、運動というものをどのように捉えたのかというのが、資料4ページのグラフにおいて、上位3つが「自分に合ったスポーツが見つけれたら」、「自分のペースでおこなうことができたなら」、「うまくできるようになったら」といった、自分の内側のやってみようというものではなくて、それが見つからないからできないといった答えになっている。この答えから見ると、スポーツとしてきっちり捉えての回答をされたのではないかと思う。いろいろ話が出ている、いわゆる体を動かす積極性、健康補助とか日常生活という我々が話題にしているものと微妙にずれがあるような感じがしていて、どこを目指すのかというのは、もちろん体力の向上に加えて心身の健康度といったところにあると思うが、質問の内容からして、運動とは、スポーツとはといった感覚になっているとすると、そこも加味して今後のことを考えていかれると良いと思う。先ほど徳成委員がおっしゃったように、日常の走ったりといったことを福岡市外の学校では毎日行っているところもあって、学校の先生が嫌がらないようにしなければ、先生が1日裸足で子どもたちもみんな裸足だったり、毎朝何分間かグラウンドを走ったりする場合もあれば、先生が苦痛に感じる場合もあるので、スポーツの位置付けというものを皆さんでもう少し平たくしてやっていかなければ、なかなか子どもたちに伝わらないのではないかと思う。その辺りの受け止め方についてご意見させていただいた。

(石橋課長)

- おっしゃるとおり、子どもたちの意識としては「競技」という観点で答えているので、こういった回答が多くなっていると捉えている。一番大事なのは、自分の体力、健康に自分で向き合うような子どもになってほしいし、将来もそういったところが大事だと思う。それについては今後、研修等も含めて、これからの運動、スポーツ、体育の考え方は、しっかりと我々も研究していきたいと考えている。

(原委員)

- 私も、体育の技能というか数字に出るところについて細かく技術的にというよりは、運動習慣の形成をしていただきたいので、先ほどから話も出ているが、学校の中休み、昼休みもそうだが、運動しやすいように例えば校庭解放などできるだけ場所を増やしてあげて、都市の中でも今はクレームがくるところがたくさんあるので、場所を作ってあげて、みんなでレクリエーションではないが、スポーツのような激しいものではなく、運動が嫌いな子でも参加して楽しいと思ってもらえるような習慣化していくようなところに力を入れていただきたいと思うし、そういった環境をできるだけ作っていただきたいと思う。

(西村委員)

- みなさんが言っていたので、私も同じ意見だが、やはり小さい頃から、意識して運動するのではなく、いろいろなところで体を動かすことが少なくなってきたと感じているので、ちょっと移動するだけでも保護者が車に乗せていかなないと安全を確保できなかつたり、いろいろ環境が難しくなってきたと思うが、楽しく、体が動き出すような環境作りが学校の中でもあったら良いと思う。原委員もおっしゃったように、レクリエーションであつたり、いろいろな生活の中で体を動かすことが自然にできてくるように、意識して体育などではなく、それももちろん大事なことだが、体が軽くなるような意識的な学校づくりができればと思っている。

(町委員)

- 体育の指定校で校長が頑張っておられる学校と、一般の学校とでは点数はかなり違うものなのか。それともあまり違いはないのか。

(石橋課長)

- そういったデータはないが、例えば今年度、草ヶ江小学校においては体育の研究発表会をしていただいたが、ここは伝統的に体育を頑張っていたいており、子どもたちの運動に対する関心、意欲は高いとみている。また、体育の授業を見ていると、上手に45分間体を動かしている印象があつて、そういった点では、研究していることに意味はあると思っている。

(町委員)

- 小学校に行って見てみると、子どもたちが楽しそうに体を動かすことをしている学校と、そうでない学校とがある気がする。その辺りも含めて、子どもたちが興味をもてるような、一昔前は毎日5分間全員でグラウンドを走ろうといった、今考えるとかなりハードなこと、全員で毎日1キロメートル走れば年間で月まで往復したなどゲーム感覚で運動させていたところもあつたが、新型コロナウイルス感染症の影響でそういったことが全くなくなってしまったが、やはり体を動かすということは、楽しんで子どもたちにさせるということが大事だと思う。体育の研究をしているところで効果があつたことは水平展開していただければと思

う。やはりこのままでは、成績で1番になるということではないが、全国平均よりかなり下回っているということはショックであるので頑張っていきたい。

9 閉会

教育長閉会を宣告 10時38分